

第24回日本喉頭科学会総会・学術講演会

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/31510

『学会開催報告』

第24回日本喉頭科学会総会・学術講演会

The 24th Annual Meeting of the Japan
Laryngological Association金沢大学医薬保健研究域感覚運動病態学
(耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

吉 崎 智 一

第24回日本喉頭科学会総会・学術講演会が、金沢大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授吉崎智一会長のもと、平成24年3月8日(木)・9日(金)の両日に金沢市文化ホールおよび金沢ニューグランドホテルで開催されました。

耳鼻咽喉科学では、耳科学、鼻科学、口腔・咽頭科学、喉頭科学、それらに一部オーバーラップしながら頭頸部外科学と多岐にわたる領域を扱いますが、なかでも喉頭科学では、音声・嚥下・呼吸など生命の維持のみならず生活の質に大きく関与する臓器をサブスペシャリティとして扱います。話す、歌うといった人間社会ならではのコミュニケーションに関わる疾患、高齢化社会でおおいに問題となってきた嚥下障害、急性喉頭炎などの感染症、喉頭アレルギーなどのアレルギー疾患、さらには生命を脅かす喉頭癌や気道狭窄など、耳鼻咽喉科領域でも喉頭科学の担う役割はますます大きくなっておりま

す。このような喉頭科学という専門領域を網羅して総合的に討議・教育する数少ない場として、本会はかけがえない存在となっております。金沢大学医学部は、文久2年(1862年)3月に加賀藩が金沢彦三8番丁に開設した種痘所(反求舎)が起源とされており、折しも平成24年(2012年)3月は創立150周年にあたることから、本総会・学術講演会のテーマを「伝統から創造へ」といたしました。一般演題発表に加え、2つのシンポジウムと1つの教育パネル、3つの共催セミナーを通して、喉頭科学における「伝統」そして「創造」について熱い討論を期待しました。

シンポジウム1「喉頭癌治療の現状と展望 ―どのよう

に治療法を使い分けてゆくか―」では、防衛医大教授塩谷彰浩先生の司会のもと、近年多様化する喉頭癌の治療において、病態に応じた治療法の違いについて発表がありました(防衛医大 富藤先生・大阪成人病センター 藤井先生・横浜市大 田口先生・金沢大 脇坂先生)。進行喉頭癌の治療は、従来のように「喉頭全摘術のみありき」から、「いかに喉頭を温存して治療成績を向上させるか」にシフトして来ています。経口腔的な手術治療を発展させる一方、化学放射線治療も進歩しています。また化学放射線治療の発展に伴い手術機会が減少する一方、救済手術は前治療の影響により困難さが増しています。このような状況で、いかに喉頭癌の治療を進めていくのか、熱い討論がかわされました。

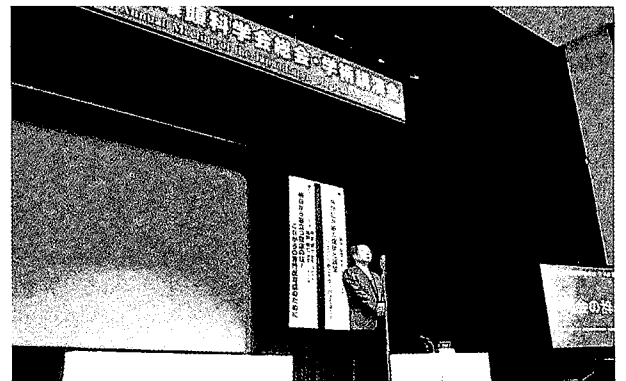
シンポジウム2「難治性喉頭疾患に対する診断・治療の現状と展開」では、福島県立医大教授大森孝一先生の司会のもと、診断および治療に難渋する5つの喉頭疾患(多発血管炎性肉芽腫症・痙攣性発声障害・両側声帯麻痺・喉頭気管狭窄・喉頭乳頭腫)におけるトピックスが紹介され、これらの疾患に対する新たな道筋が提示されました(旭川医大 片田先生・熊本大 讃岐先生・京都府立医大 廣田先生・福島県立医大 多田先生・金沢大 室野先生)。いずれも音声・嚥下・呼吸にかかわるため誰もが対処に苦慮している疾患ですが、診断のピットフォール、治療の工夫、新たな治療法など、ディスカッショ

ンも含め聴衆に有益な内容ばかりでした。

教育パネル「明日から役立つ臨床の技! これからの専門医育成のために」では神戸大教授 丹生健一先生・久留米大准教授 梅野博仁先生の司会のもと、喉頭外科における基本手技から応用手技についての、タイトルどおり明日から役に立つ内容を5名の先生からご発表いただきました(慶応大 齋藤先生・京都大 平野先生・山口大 原先生・東京大 二藤先生・神戸大 齋藤先生)。喉頭をサブスペシャリティとする若い耳鼻咽喉科医が増えるのを期待せずにはられません。

その他に、ランチョンセミナー3題を共催しました。1日目には愛知医大教授 小川徹也先生による喉頭癌に対する導入化学療法(京都府立医大教授 久育男先生司会)ならびに鹿児島大教授 黒野祐一先生による咳嗽と副鼻腔炎(和歌山県立医大教授 山中昇先生司会)、2日目には藤田保健衛生大教授 内藤健晴先生による喉頭アレルギー(鹿児島大教授 黒野祐一先生司会)のご発表を賜り、いずれもアップトゥデートな内容で大好評でした。一般演題は116題もの発表があり、基礎的なことから臨床的なことまで喉頭科学をほぼ網羅しており、熱く活発な討論が行われました。

この冬は雪のため石川県へのアプローチに支障を生じたことがありました。そのため、本会の開催にあたりましては3月上旬とはいえ天候が懸念されましたが、杞憂に終わり穏やかな天候に恵まれて全国から360名(初期研修医・学生を含む)の参加者がありました。皆さまには学会会場を離れましても、古都金沢の散策や料理において「伝統」と「創造」をじゅうぶんに堪能していただいたものと信じております。最後に本学術集会へご参加いただきました皆さまに御礼申し上げますとともに、金沢大学十全医学会をはじめご支援賜りました皆さまに深く感謝いたします。



吉崎会長による開会の辞



ポスター会場での討論